令和８年３月３１日
都立高島高等学校長

令和７年度　東京都立高島高等学校　学校経営報告

１　今年度の取組の成果と課題

(1) 学習指導

【成果】

・　全教員が始業時間前に教室に入りチャイム始業を実施した。１単位時間の授業に集中して取り組ませる授業展開の工夫により、落ち着いた環境での学習機会の提供ができた。
・　年間指導計画に基づき見通しをもって計画的に授業を行うとともに、授業における探究的な学習や考えさせる授業を計画的に授業計画に位置付け実施した。特に、２学期は「考える」ことを重点とすることを生徒に示し意識させることで、授業への取組状況に良い変化が見られた。
・　朝学習の計画を立て、授業開始前の指導を徹底するとともに、各種講習を、教科、分掌及び学年との連携をもとに計画的・効果的に実施し、学習習慣の定着を図った。
・　観点別評価と評定の見直しを行い、教科主任会議や職員会議で適正な評価・評定に関する職員の意識付けを行った。
・　初任者研修、若手研修、中堅教員研修などの研究授業や、授業公開週間を活用し、教員相互による授業改善提案などが実施され、授業改善を図った。また、生徒による授業評価アンケートの結果を分析し、生徒理解から見る授業改善の視点を職員会議で共有した。
・　授業でのデジタル技術の活用や、Teams での課題配信などの工夫により、生徒の論理的思考力の育成を図るとともに、学習進度等のスモールステップの明確化、生徒に寄り添った学習サポートを実施した。
・　ＧＴＥＣの全員受検を実施するとともに、英語科を中心に実用英語技能検定の受験を促し、JET による直接指導を経て英語力の向上に努めた。
・　特別な支援や配慮を必要とする生徒に関して情報を共有し、個々の状況に合わせてＳＣとの連携指導や、日本語指導の活用を行い、生徒の困りごとに対して適切に対応できた。

【課題】

・　基礎学力の定着に重点を置いた授業展開から、考える力を身に付けさせる授業展開への更なる改善が必要である。
・　総合的な探究の時間の探究活動の指導内容の見直しを図り、キャリア教育重視型から探究課題解決型への指導に改善する必要がある。
・　家庭学習時間が学年目標（１、２学年は１時間、３学年は２時間）に届かず、自学自習できる力をつける計画的・効果的な指導改善や、放課後の講習等の充実が必要である。
・　実用英語技能検定を大学入試に活用する生徒が増えているため、英語科だけでなく進路指導部や学年と連携しながら英語検定に取り組ませる仕組みを構築し、生徒への意識付けを促す取り組みをより積極的に行う必要がある。

【結果】

生徒の授業満足度　82.3％
教員相互の授業参観　140 名（年間累計）
実用英語技能検定合格者　準１級　１名　　２級　48 名
図書室の利用者数　4522 名

(2) 進路指導

【成果】

・　年２回の面談週間での担任による個別の進路指導や進路指導部の進路希望アンケート調査、ホームルームや期末考査後を活用したキャリア教育を計画的に実施した。
・　夏期講習などの講習は年間を通じて 80 講座（昨年度 97 講座）開講し、延べ 727 名（昨年度 1016 名）の生徒が参加した。
・　年間６回の模擬試験を実施した。実施後は１学年４回、２学年４回、３学年３回の計 11 回の分析会を開催し進路指導に向けた各学年の課題を学年担任団で共有したほか、各教科で生徒の現状と課題を「模試分析まとめ」に整理し、今後の学力向上への取組や進路指導に生かした。
・　推薦入試や総合型入試を希望する生徒に対して、教職員と生徒とがバディを組み面接指導に当たった。また、小論文指導や面接指導を自主的に教員に依頼するなど、生徒の進路への意識

の向上が見られた。
・　大学入試共通テストのオンライン申込に必要な情報等大学入試に関わる情報を、生徒向けには Teams で、保護者向けには Classi で配信するなど、丁寧なサポートを充実させ、ミスなく手続き等進めることができた。

【課題】
・　進路希望決定の時期が遅く、年内入試への指導開始時期が９月以降となる生徒がいる。３年間の進路指導計画について、時期・目的・方法を具体的に計画するとともに、進路指導部と学年担任団が一体となり組織的により計画を具体化しながら振動指導が実施できるよう改善を図る必要がある。
・　開講する講習の内容が担当する教員に一任されており講習に参加する期間としての生徒への意識付けが組織的にできなかった。次年度は、集中講習期間を設定するとともに、基礎・応用、レベルアップなど必須の講習を組織的・計画的に設定する。

【結果】
四年制大学進学率　65％
　ＧＭＡＲＣＨ４名、成成明学国武 10 名、日東駒専 38 名、大東亜帝国 51 名
大学入試共通テスト受験者　190 名

(3) 生活指導

【成果】
・　本校の生活指導方針に則り、あいさつの励行、時間管理、身だしなみ、授業規律、校内美化など、基本的な生活習慣を確立させる生活指導を実施した。特に、生活指導部を中心とした登校時の身だしなみ指導や、定期的な身だしなみ指導により、生徒への意識付けを行った。
・　授業規律及び携帯電話使用に関するマナー指導に取り組んだ。授業中の携帯電話の使用に関するルールは定着している。
・　自転車通学のルールやマナーの指導を実施する。ヘルメット着用を保護者会で全６回促すとともに、セーフティ教室を実施し、警察と連携し自転車による事故や負傷の未然防止の指導を実施した。
・　いじめに関するアンケート調査を年３回実施し、生徒の状況を適切に把握した。いじめに関する重大事態は０件である。
・　今年度は体育祭を外部施設で実施した。これに伴い、競技の見直し、運営の工夫など迅速に進め、大きなけが等なく実施することができた。生徒が準備から片付けまで主体的に役割を果たし、自己有用感を高める教育につながった。また、文化祭は、本校舎での最後の文化祭となり、多くの来場者を迎え、来場者を喜ばせる催し物を生徒が主体的に考え運営できた。
・　特別な配慮が必要な生徒はスクールカウンセラーと連携し対応している。また、生活指導上、課題のある生徒についてはスクールカウンセラーとの面談を実施し、気持ちの整理等により学校生活への適用が改善されるなどの成果があった。
・　体罰根絶に向けた研修を４月、７月に実施するとともに、職員会議で年 10 回の管理職による指導改善方法に関するミニ研修を行った。

【課題】
・　ＴＰＯに応じたふさわしい行動や態度をとる指導を徹底し、多くの生徒は意識して取り組むことができているが、一部の生徒は思春期特有の行動となっている。組織的な指導の在り方を再検討する必要が生じている。
・　避難訓練実施時期を見直す時期にきている。暑さ対策や、仮設校舎での生活に合わせた避難訓練実施時期・方法を検討するとともに、隣接する高島特別支援学校の避難訓練との合同実施を中・長期的に検討する。

【結果】
学校評価　学校満足度への肯定的な回答　生徒 81.6％　保護者 87.3％

(4) 健康指導

【成果】
・　スクールカウンセラーによる全員面接を実施し、必要に応じて別途面接の機会を設定しながら、生徒の健全育成に努めた。また、都立学校版コンディション・レポートを活用し、生徒の心身の健康状態について情報共有を密に行い、生徒理解及び自殺企図等の防止を図った。

・　冷房等の適切な使用や、気温の変化に応じた行事の運営、ＰＴＡと連携した体育祭での飲料水・塩分タブレットの配布など、適切に熱中症への対策を進めた。また、養護教諭を中心に、７月に運動部活動生徒に対する熱中症に関する指導を実施し、熱中症への理解促進及び未然防止に努めた。
・　けがや体調不良に対する迅速な対応を徹底するとともに、生徒の経過観察を丁寧に行うことで、きめ細やかな生徒の健康管理に努めた。

【課題】
・　スマートフォンの使用時間の長期化や依存が深刻である。寝不足による体調不良などの生徒も見られる。スマートフォンの適切な使用について指導するとともに、保護者と連携しながら健康指導を推進していく。
・　思春期特有の悩みによる不調や表現行動に課題の見られる生徒に対するスクールカウンセラーの活用を充実させていく必要がある。

【結果】
熱中症に関わる部活動生徒対象の研修　１回

(5) 特別活動・部活動

【成果】
・　生徒による学校行事運営や、学校説明会・学校見学会での生徒の活躍の場面を設定し、本校生徒の自己有用感や他者への貢献の意識、帰属意識を高めることができた。
・　推薦入試を実施している運動部活動の生徒に対しては、特に本校のリーダーとなる資質を高めるための部活動毎の貢献活動を実施した。清掃活動や集会での整列担当、学校行事の体育館の準備や片付け等、様々な場面で学校運営に協力し、帰属意識を高めた。
・　高島特別支援学校の施設を借りて部活動を実施する取組を通して、配慮が必要な場合のルールへの理解促進を図った。
・　ダンス部・バトントワール部と高島特別支援学校の中学部の生徒とのダンス交流活動や、ダンス部・水道学部と高島平地区の保育園幼児との交流を通じて、他者への思いやりの気持ちを醸成した。
・　文化祭では、板橋特別支援学校と高島特別支援学校の生徒作品の展示を行うとともに、本校生徒の写真などの作品を貸し出し展示してもらうなどの交流を図った。
・　赤塚公園の清掃活動を高島特別支援学校の生徒と共に行い、相互理解の他、お互いに協力する姿勢や清掃することでの社会貢献の意識を高めることができた。

【課題】
・　部活動が盛んで生徒の活動が活発である一方、部活動ガイドラインを遵守した効率的・効果的な部活動指導への改善を図る必要がある。
・　部活動に入部していない生徒が特別活動を通して社会貢献の意識が高められるような行事等の在り方について検討する必要がある。様々な活躍の機会を意図的・計画的に設定できるよう改善を図る。
・　高島特別支援学校との協働活動の計画を年間行事計画に位置付け、定期的・継続的な取組となるよう更に検討していく。

【結果】
部活動加入率　87%

(6) 募集・広報活動

【成果】
・　中学校進路ガイダンス・上級学校説明会への訪問に８回、外部の進路フェアに６回参加（参加者 824 名）し、本校のＰＲ活動を行った。
・　学校見学会を４回（参加者 1194 名）、学校説明会を４回（参加者 1148 名）実施した。その際個別相談を実施し、来校者への丁寧な説明を実施した。生徒のあいさつに対して高評価を得た。
・　夏季休業期間中に実施した部活動体験では 327 名の中学生の参加があった。
・　ホームページの情報更新を 343 回、ＳＮＳによる情報発信を 170 回行った。その他、生徒会や部活動単位での公式ＳＮＳを新たに開設し、日常の練習風景などの発信に努めた。

【課題】
・　応募倍率の更なる改善に向けて、募集対策の新たな取組を検討する必要がある。高島高校ブ

ランドを広く広報するためのキャッチコピーの創造、中学生体験授業など、分かりやすい取組を検討していく。
・　組織的な運営という点では課題がある。次年度は、全教職員が一丸となって広報活動に参加するような仕組みを構築する。

【結果】
入学者選抜応募倍率　推薦　2.97 倍　　学力　1.12 倍
文化祭来場者数　2564 名（前年度 2183 名）

(7) 学校経営・組織体制

【成果】
・　企画調整会議で各分掌、学年の課題、学校の課題を共有するとともに、企画調整会議から各分掌に課題を下ろし、分掌内での議論の場を設定した。課題に対する解決策や懸念、本校の実態が議論できたことで、単に報告事項にとどまらずに中長期的な視点で取り組む意識を醸成できた。
・　高島高校の今後を考えるＰＴを設置し、本校の教育課題を中堅教員が中心となって議論し、中・長期的に改善できる方策を立てることができた。また、令和９年度に向けた教育課程の見直しについて、教育課程委員会を中心に議論し、構想案を作成した。
・　校内の情報セキュリティ対策を徹底するとともに、会議資料を一元管理し、教職員への情報提供・情報共有に Teams 等デジタル技術を活用するなど、校務のＤＸ化を推進した。
・　保護者との連絡手段に Classi を活用するとともに、生徒向けお便りなど Teams での配信に切り替え、紙ベースの情報提供からデジタル化にほぼ移行することができた。
・　年度当初に校内での数値目標の設定を行うとともに、学校運営連絡協議会の開催時期に合わせ、校務分掌等における取組状況の検証、修正、改善を行った。
・　個人情報の適正な管理及び体罰防止等、服務管理を厳正に行った。校内研修や職員会議でのミニ研修等で教職員の意識の向上・改善を図った。
・　12 月に本校舎から仮設校舎に引っ越し、１月から仮設校舎での授業等が始まった。この間、個人情報の紛失等の事故無く引越しを終えることができた。
・　教職員のライフ・ワーク・バランスを大切にした学校運営を推進した。特に、育児休業等が取りやすい、相談しやすい職場環境を提供できた。

【課題】
・　年度当初の新規異動教職員の超過勤務が課題である。引継の仕組みの構築や電子データの整理、３学期に次年度の準備を進めていく組織体制への転換など、具体的な対策により改善を図る。

【結果】
デジタル技術の活用　保護者通知 12 月までに周知・試行、１月以降本格実施

2　次年度以降の課題と対応策
・　生徒の学習意識の向上、基礎学力の向上、自宅学習時間の確保が課題である。スモールステップを明確にし、達成感を味わわせる指導への改善や、丁寧に寄り添った指導の継続、クラス単位や学年単位での学習集中期間の設定、進路指導と並行した学習意欲の喚起など、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善に取り組み、生徒の進路実現に結び付ける。
・　生徒の学習状況の評価を常に改善し、授業内評価、個人内評価、ポートフォリオの実施など、様々な評価を取り入れ、指導改善に生かす。
・　生徒の身だしなみや規律への意識の向上に課題がある。思春期特有の行動特性を研究するとともに、現在の生徒の状況にあった指導の在り方の研修の実施、進路指導と関連付けた身だしなみへの意識向上の取組など、指導の理由や背景を理解させるための取組を推進する。また、生活指導指針の見直し・改善を図り、生活指導部、学年、進路指導部が協力して組織的に生徒を育成できるよう体制を見直す。
・　部活動ガイドラインを遵守し、生徒の健全育成を図る。
・　若手・中堅教員が活発に議論し、教育課題を考え改善策を提案できる機会を設定し、ＯＪＴを通じた人材育成を継続していく。
・　校舎改築工事に伴い、中期的に体育祭を外部施設で運営する必要がある。次年度は熱中症等の対策がより確実に取れる施設の選定、競技内容や運営等の改善を図る。また、文化祭については、

次年度から仮設校舎での実施となるため、実施方法や来校者対応など、様々な課題に対して事前に対応策を検討し、適切かつ安全に実施していく。

・　総合型選抜など、年内入試への希望が高まっている。キャリア教育の全体計画の見直しや、３年間を見通した進路指導計画の見直し、目的・目標・方法を具現化し進路指導部と学年との連携・協力体制の強化など、組織的な進路指導への改革が必要である。

・　総合的な学習の時間の指導内容の改善を図る。令和９年度から週時程に組み込み、進路研究から課題研究を充実させた指導内容への移行を図り、令和８年度は準備期間として校内体制の仕組みを完成させる。

・　高島高校ブランドを再構築し発信を強化する取組を組織的に、また生徒と共に実施し、地域から愛される学校づくりにさらに力を入れていく。

・　校舎解体、新校舎の建設と、工事が今後も継続していく。工事関係者との定期的な打合せを徹底し、生徒の学習活動への影響が最小限になるよう取り組む。